MAPLE NEWS

2011年 Vol.66

Well done!　やったね、お二人さん。

元不登校生と不登校生もどきの二人が、帰国し発した共通語が「達成感」。

一人は川嶋良尚。クラーク記念国際高等学校と現地のLong Bay Collegeを卒業し、南半球の新学期が始まる2月からWhite Cliff Collegeでポートフォリオ（作品集）つくりに集中するため、ポータブルミシンをスーツケースに詰め再度、オークランドに向かい来年はイギリスの美大を目指す。

もう一人は飯島拓也。中学2年生でニュージランドの中学に留学し、得意な水泳で学校代表に選ばれニュージランドの公教育に目覚める。日本の公立に通っていたが、決まった答え探しの管理教育に不向き。時間があれば一人で交通機関を乗り継ぎまわったり、母親の手伝いを上手な包丁さばきでする長男をみて、実学で生きる力を付けるタイプと判断した父親は、心臓の手術で声を失う時期もあったが、CASとの連携の軸にブレは微塵もなかった。

それに応える様に、息子は日本のルネサンス高校の卒業と、調理専門学校NSIAのマーガリン彫刻部門での金賞を父親にプレゼントするまでに成長し帰国した。

我が家に一泊させ、拓也の将来の計画をじっくりと聞いてみる。

まずはニュージランドで、履歴を積み上げ永住権を取得する。その後は飲食業界で起業する。時間的に余裕ができれば、ニュージランドの隠れ場を紹介するIT時代のトラベル・ライターの仕事も日本語で発信したい。更に、マーガリン彫刻の腕に磨きをかけ、今回の金賞の導きをしてくれたTIM先生のアシスタントとして、日本でコラボ展を実現させてあげたい。

IT時代を背景に日本の通信教育と、留学をパックにしたダブルスクールの実践を、次世代の学びの一つに育てあげるシュミレーションが、川嶋良尚、飯島拓也の実践で形として現れてきたのは嬉しい。

まず実践ありだった私は、10年前、ヒトの教育の会（http://www.hito-kyoiku.com）に参加して以来、不登校で悩む親御さんを子供の出産から、母親の慈愛が絶対条件とされる3歳まで、それに次ぐ10歳までの情緒と好奇心、模倣、訓練、道徳、躾を父親がバトンタッチして義愛まで高めているか、過去に遡って徹底的に取材する様になっていた。すると内向きになった時期と原因が炙り出されて来るから不思議だ。

これは同会の井口潔会長が提唱する、心の成長生理の仕組みからみた生涯の俯瞰図である。今後もこの俯瞰図を下敷きに3歳、10歳までの家庭環境を炙り出し、学業不振の児童や引きこもり青年を対象に、転地教育の実践で夢を形にする後方支援ナビゲーターを続けよう。

New Zealand Long Bay College

International students can improve their English while experiencing academic life on an integration programme in a New Zealand secondary school.

The Homestay Co-ordinator at the school arranges accommodation with carefully vetted local families for international students. This enables students to experience family life in New Zealand and practise their English language skills in a family environment.

Yoshihisa Kawashima

川嶋良尚

「ダブルスクールを終えて」

2010年3月5日息子はクラーク記念国際高校（以下クラーク高校）を同年12月13日　New Zealand Long Bay College（以下L.B.C）を卒業した。現在19歳。

2008年7月彼は（高校2年16歳）夏休みを利用しL.B.Cを訪れた。目的は英語圏での学校体験。1weekの滞在予定が、1ヶ月そして3ヶ月となり、12月に帰国したときには、L.B.Cであと一年頑張ってみたいという気持ちに変わっていたようだ。中学受験で、中高一貫校に在学したが、当時の息子は、まるでgoalが見えないダンジョンに迷いこんだようにさえ見受けられた。高校一年の12月にクラーク高校に転校した。

NZの新生活が、それまで彼の中で眠っていた何かを刺激したのだろうか？本格的にNZ留学を決めた時、彼はクラーク高校を継続すべきかどうか迷ったが、最終的にダブルスクールを達成することに決めた。日本の高校での卒業資格も取得出来れば将来の選択肢が増えるからだ。

約1年半に渡るクラーク高校のレポートや学期毎のテスト、同時にL.B.Cでの授業や課題提出等が重なり、単位取得が非常に困難と思われる時期もあった。実際に彼はとても努力したと思う。L.B.Cでは、School紹介用のパンフレットに掲載されたり、ファッションショーに出展したりしたと後で知り大変驚かされた。

英語で授業を受けるのは大変苦労したらしいが。卒業に向けて両校のノルマをこなす事が出来たのは、本人が何より頑張った事。それに加えて、クラーク高校の諸先生方の協力を得られたことが非常に大きかった。また、難波先生が日本で、さらに、NZではAMICALEの荒川さん一家はじめHomeStayFamilyやL.B.Cの方々が親身にサポートしてくださったこともその達成をうながした。そして、何よりも大きな力は沢山の友達の存在だと思う。今年彼はNZのデザインスクールに進学する。その後はUK留学も視野に入れている様だ。大切な事は、たとえくじけそうになってもどんな時も一生懸命な気持ちを持ち続けること。スーツケースからL.B.Cで着ていたあちこち擦り切れたスクールユニホームを手渡された時、息子の努力の結晶を心から強く感じ、立派に成長したことを大変誇らしく思った。ダブルスクールを成し遂げた事を糧に臆することなく、自分の道を切り開いて行って欲しい。

2011.01.05 川嶋裕子（川嶋良尚の母）

金賞受賞 GOLD

おめでとう!!

NSIA日本人生徒、カリナリーフェアにてゴールド受賞

飯/島/拓/也

Takuya Iijima

NZ Culinary Fare Competitions 2010

Class Margarine Carving Buffet Showpiece金賞受賞

毎年NZカリナリーフェア（NZフード業界全国大会）にNSIAのたくさんの生徒がノミネートされ出場し、数多くのメダルを受賞します。ニュージーランドのフード業界教育施設の中で一番数多くのメダリストを輩出するNSIAは、同大会においてトーレーニング施設として最高峰の賞であるトレーニング・エクセレントアワードを受賞しておりますが、今年も受賞し5年連続となりました!賞を受賞すること自体とても素晴しいことですが、5年連続というのは前代未聞の事で、NSIA卒業生、在校生にとっても大変名誉なことでもあります!今年もカリナリーフェアにてNSIAの生徒さんがたくさんの賞を受賞しておりますが、日本人生徒2人もなんと、ゴールドを受賞!AmicaleNZで高校時代からお世話しているTAKUYA君もその中の一人です!TAKUYA君は、マーガリン彫刻部に出場し、見事に最優秀賞を受賞しました。大会中3日間かけてライブで製作していくマーガリン彫刻ですが、大会という緊張も加え、会場内にてその他多数の部門がライブにてコンペティションが行われので、いろんな雰囲気に直面し大変そうでしたが、3日目、作り終えた後はとてもすがすがしい顔に!大会終了の昨日の夜、受賞発表&受賞式が行われ、見事ゴールド受賞!TAKUYA君の担任の先生TIMと一緒に。TIMは、なんとマーガリンのNZチャンピオンでもあり、TAKUYA君は彼から直接指導していただきました。技術や感性、そして日本人としての繊細なテクニックを持ち合わせているTAKUYA君には、TIMも指導し熱が入ったとのことなので、彼もとても嬉しそうです。

AmicaleNZ代表　荒川千秋

ENGLISH JAPANESE STUDIES
CANADIAN ACADEMY SETAGAYA
4-20-13-213 NOZAWA SETAGAYA-KU, TOKYO, 154-0003, JAPAN
BRANCH:ENGLAND,CANADA,NEWZEALAND
TEL:03-5712-3670
FAX:03-5712-3671